

# 平成22年度事業状況報告

## (事業状況報告の内容)

### 1. 奨学金の給付

#### (1) 本年度の給付対象者及び給付額

大学院生 17名(うち新規 7名)、1人当り月額25,000円

#### (2) 事業の概要

##### ① 奨学生の採用

本年度は募集人員を減らし、次の応募要項をもって募集を行ったところ、応募者は11名であった。選考委員会において、そのうち7名を奨学生として決定した。

募集要領 応募資格 日本国内の建築及びその関連学科を専攻する大学院修士課程第1学年在学者

採用人数 7名

奨学金 大学院修士課程終了までの2年間

提出書類 在学証明書、成績証明書、建築教官の推薦状、大学院における研究テーマの概要等

審査 選考委員会において決定した。

##### ② 奨学金の給付

本年度の奨学生は、前年度採用分10名を加え、総数17名である。

奨学金は、月額25,000円を6カ月分まとめて、6月と2月に支給した。

2009年度奨学生 (10名) 別紙の通り

2010年度奨学生 (7名) 別紙の通り

### 2. 奨学生セミナーの開催

#### (1) 奨学生の指導のための研修会である。

開催 年2回(春、冬)

一回あたり参加人数 15名

一回あたり諸費用 約640,000円

#### (2) 事業の概要

建築家の中山英之氏と長谷川豪氏を講師に迎え、新旧奨学生参加のもとにセミナーを開催した。

開催日 平成22.6.29 建築家 中山英之氏

平成23.2.2 建築家 長谷川豪氏

### 3. 研究助成金の支給

平成22年度は、従来の研究助成金に代わり建築図書の助成を行なったため、研究助成金の支給は行なっていない。

### 4. 優秀作品の表彰及び講演会

#### (1) 新建築住宅設計競技2010の開催

当財団及び新建築社共同主催による本年度新建築住宅設計競技は、下記課題で行われた。

課題 新しい住宅

A New Spirit

今回のコンペティションのテーマは「新しい住宅」です。新しい時代の、新しい住まいのあり方を提案してほしいと思います。

今、僕らが住んでいる住宅はそれなりに快適で、素晴らしいものですが、それらの多くは昔につくられたものです。それらはかつての生き方、今までの社会に合うようにつくられたものがほとんどで、これからの時代のくらしのためにつれたものではありません。しかし、時代というものは変わり、社会のかたちも変わっていき、人間の生というものも変わっていきます。現代の僕らの生活は、100年前の生活とは著しく異なっているのです。そして、どの時代の住宅も、人間が生きることの激しさ、素晴らしさというものを、住宅それ自身が鮮やかに表してきました。僕らも、僕らの時代の生き方がいかに素晴らしいかということを示す住宅像を、考えることができます。新しい住宅を考えるということは、新しい時代のライフスタイルとは何か、これからどのようなすごい生活があり得るか、を考えることでもあります。それは、僕らの時代の新しい価値観とは何か？ という問いです。新しい住宅を可能にする、新しい時代の精神というものを、問うているのです。新精神を表すためには、今までとは違うアプローチが必要になってくるかもしれません。それはもしかしたら、僕らがイメージするようないわゆる住宅というかたちには、ならないかもしれません。場合によっては、都市自体をつくり直すこともあるかもしれません。どのような場所で、どのような人間のための、どのような生活なのかという条件設定は特に定めませんので、みなさんが自由に構想してください。未来を感じさせる素晴らしい建築、人間が現代に生きることの素晴らしさを高らかに表明するような建築を、想像力豊かに描いてください。

(西沢立衛)

締切日 2010年12月24日

審査委員 西沢立衛

入選発表、総評 月刊『新建築』誌2011年3月号

今回の設計競技では、応募者の負担を考慮して初めてデジタルデータでの募集・審査を行なったことが奏功し、779点(そのうち海外からは25カ国から180点)という昨年の2倍に相当する応募作品が寄せられた。そのうちの入賞作品に対して表彰を行った。

入賞者:

1等(1組, 賞金50万円)

Kim Junghoon Lim Seoyeon Park Hyunchul(韓国)

2等(1組, 賞金20万円)

鈴木貴詞 槇野雄仁(日本)

3等(4組, 賞金各5万円)

鈴木舞 一條真人(日本)

YoungWook O. Jeyong Kang Joohyun Park Boram Hong(韓国)

福原光太(日本)

田中和沙 佐々木良介(日本)

4等(4組, 賞金各2万5千円)

岩倉巧(日本)

Taeheon Kang Hyejin Lee(韓国)

Emilie Augéard Marc-Achille Filhol(フランス)

junko awatani(日本)

(2) 新建築賞の表彰及び受賞者による講演会

(第26回新建築賞の表彰)

新建築賞は、住宅作品を通して建築設計の新たな展開に大きな可能性を感じさせる新人の奨励のため、毎年、その作品の設計者を表彰している。

第26回となる今回は、『新建築住宅特集』2009年1月号から12月号までの間に掲載された作品及び、『新建築』誌に掲載された住宅に関連した作品が対象となった。

各審査員があらかじめ推薦作品を提示し、座談会形式の最終審査を経て選出、その結果、下記の2作品の入選が決定した。

審査座談会と受賞作品は『新建築住宅特集』2010年4月号に掲載している。

受賞作品 宮晶子「house I」

中村拓志「House C」

審査員 坂本一成、西沢立衛

(第26回新建築賞受賞者による講演会)

第26回新建築賞受賞者による講演会を、表彰式と合わせて、平成22

年4月13日にリビングデザインセンターOZONEにて開催した。

平成22年4月13日 会場：リビングデザインセンターOZONE

入場者数：100名

講師 (1) 宮晶子「house I」

(2) 中村拓志「House C」

協力 (株)新建築社

## 5. 講演会の実施

平成22年度の講演会は、開催を希望する協力会社等がなかったため見送りとなった。

## 6. 建築図書の助成

当財団の事業内容のひとつである「建築関係図書資料の収集助成」の一環として、建築を学ぶ学生に対して広く効果的に研究図書の助成を行うべく、建築専門誌の購読補助を実施した。

国内の代表的な建築デザイン誌である月刊『新建築』を助成対象図書と指定し、研究資料として1年間の継続利用を希望する学生を公募したところ、予想を上回る1,466名の応募があった。そのため当初予定の100名を超える117名を対象に購読料の補助を行なった。

この購読補助の合計費用は2,685,000円である。

## 7. 吉岡ライブラリーの開設

当財団が行なっている、建築を学ぶ多くの人たちを奨励するさまざまな活動をより積極的に展開すべく、図書室と、展示施設やセミナールームを併せもつ「吉岡文庫ライブラリー」の設置を行なった。

株式会社新建築社および株式会社エー・アンド・ユーから国内外の建築系雑誌約5,000点の寄贈を受け、これらを無料で閲覧できるスペースを設けるとともに、建築に興味をもつ、特に若い人たちが集うスペースとなるよう、今後、従来外部で行ってきたセミナーや、「新建築住宅建築設計競技」の入選案等の当財団の活動成果を展示する予定である。

この「吉岡文庫ライブラリー」の機材等の費用は1,238,944円、改装関係の費用は13,751,628円で、改装関係の費用は固定資産取得費に計上している。

(株式保有会社の概要)

- ① 名称 株式会社 新建築社
- ② 所在地 東京都文京区湯島2-31-2
- ③ 資本金 10,000,000円
- ④ 事業内容 建築総合専門誌『新建築』、『新建築住宅特集』等を出版及び建築設計競技、講演会等の開催
- ⑤ 役員の数 4名  
代表者氏名 吉田信之
- ⑥ 従業員数 約50名
- ⑦ 株式数 35,300株(全株式が優先配当無議決権株式である。)  
保有割合 44.1%
- ⑧ 保有理由 株式会社新建築社からの寄付
- ⑨ 入手日 昭和42年3月
- ⑩ 株式保有会社との関係  
株式会社新建築社の創始者である吉岡保五郎の資産の寄付により当財団が設立された。当該会社に当財団の事務事業を委任。当財団の事務所を無償賃貸。当財団の理事に当該会社の代表取締役が就任。その他人事、資金又は取引については無関係。

以上